

令和4年3月31日

「国営土地改良事業等における令和3年度事後評価結果について」
(令和3年8月31日公表)の一部訂正について

「国営土地改良事業等における令和3年度事後評価結果について」(令和3年8月31日公表)について、国土交通省において2月10日報道発表された「「各種資産評価単価及びデフレーター(令和3年3月)」における各種資産評価単価の訂正について」を踏まえ一部修正しました。詳細は、別添新旧対照表をご参照ください。

なお、現在、掲載されている評価書は、訂正済みとなっています。

新	旧												
<p>国営かんがい排水事業 びっふ地区 地区別評価結果書 4 事業効果の発現状況 (3) 事後評価時点における費用対効果分析結果</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>用水の安定供給が図られたことが、ほ場区画や経営規模の拡大、後継者への継承、6次産業化など様々な取組の発展につながっている」と考えている。</p> <p>⑥地域経済を支える農業生産 本地域では、就業人口の4%（5,388人）（旭川市を除いた場合には24%）が農業に従事しており、農業は地域経済にとって重要な役割を担っている。 本地区を含む地域で生産される農産物は、地域内に立地するライスセンターや農産物集出荷施設に運ばれ、道内はじめ全国各地に出荷されている。 本事業の実施により、農産物の安定生産が図られたことが、集出荷施設等における雇機会の確保に貢献するなど、地域経済の下支えにつながっている。</p> <p>(3) 事後評価時点における費用対効果分析結果 効果の発現状況を踏まえ、事後評価時点の各種データに基づき、総費用総便益比を算定した結果、以下のとおりとなった。 <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>総便益</td><td>118,471百万円</td></tr> <tr><td>総費用</td><td>70,286百万円</td></tr> <tr><td>総費用総便益比</td><td>1.68</td></tr> </table> </p> <p>5 事業実施による環境の変化 (1) 生活環境面の変化 ①比布第1号支線用水路周辺における安全性の向上 暗渠化された比布第1号支線用水路（3.5km）に並行する道道296号は、小中学校への通学路として使用されているため、事業実施前には開水路沿いの安全面に不安があった。本事業の実施により水路が暗渠化されたことで、通学時の安全性が向上している。また、暗渠化され水路の上が耕作道路として利用されていることから、農作業機械が道道を使って移動する距離が短くなり、農作業機械の移動時の安全性が向上している。</p> <p>(2) 自然環境面の変化 ①環境に配慮した施設の整備 昭和30年代に愛別川に整備された愛別川頭首工は、魚道が設置されていなかったことから、取水時期には魚の移動が分断された状態であった。このため、本事業による頭首工の改修により、新たに魚道が設置されている。 魚道の整備前後に実施された魚類調査では、外来種を除いて整備前の5科7種から整備後ではサクラマス幼魚（ヤマメ）など6科8種が確認されている。</p> <p>6 今後の課題 本地区は、本事業及び関連事業によって農業用水施設が整備され、かんがい用水の安定供給等による作物の安定生産や水管理の労力軽減等による営農作業の効率化が図られている。 地域では、良好な農業生産基盤を活かして、スマート農業の実装や6次産業化の取組等が始まっており、農業経営の安定、地域農業の振興を図っていくこととしている。 このためには、機能診断を定期的実施し、適時適切な補修・補強を行うことにより、地区内の農業用水施設の機能を持続的に発揮させるとともに、更なる管理省力化にも留意しつつ、計画的な更新整備を検討・実施していく必要がある。</p> <p>[総合評価] 本事業及び関連事業の実施により、老朽化等により機能が低下していた用水施設の改修を行い、用水機能が維持されている。また、用水供給の安定が図られたことにより、良食味米の生産拡大に寄与するとともに、農業者の用水管理に係る作業時間が節減し、経営規模の拡大やクリーン農業の取組などにもつながっている。 あわせて、遠隔水位監視システムを導入したことにより、施設の維持管理に係る労力の軽減などが図られている。 これらに加えて、農作物の安定生産が行われたことも相まって、本地区における農業生産性の向上及び農業経営の安定化に寄与している。 加えて、都市近郊の立地条件を活かした農産物の直売や加工・販売にも取り組んでおり、地域の活性化に寄与している。</p> </div>	総便益	118,471百万円	総費用	70,286百万円	総費用総便益比	1.68	<p>国営かんがい排水事業 びっふ地区 地区別評価結果書 4 事業効果の発現状況 (3) 事後評価時点における費用対効果分析結果</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>用水の安定供給が図られたことが、ほ場区画や経営規模の拡大、後継者への継承、6次産業化など様々な取組の発展につながっている」と考えている。</p> <p>⑥地域経済を支える農業生産 本地域では、就業人口の4%（5,388人）（旭川市を除いた場合には24%）が農業に従事しており、農業は地域経済にとって重要な役割を担っている。 本地区を含む地域で生産される農産物は、地域内に立地するライスセンターや農産物集出荷施設に運ばれ、道内はじめ全国各地に出荷されている。 本事業の実施により、農産物の安定生産が図られたことが、集出荷施設等における雇機会の確保に貢献するなど、地域経済の下支えにつながっている。</p> <p>(3) 事後評価時点における費用対効果分析結果 効果の発現状況を踏まえ、事後評価時点の各種データに基づき、総費用総便益比を算定した結果、以下のとおりとなった。 <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>総便益</td><td>118,475百万円</td></tr> <tr><td>総費用</td><td>70,286百万円</td></tr> <tr><td>総費用総便益比</td><td>1.68</td></tr> </table> </p> <p>5 事業実施による環境の変化 (1) 生活環境面の変化 ①比布第1号支線用水路周辺における安全性の向上 暗渠化された比布第1号支線用水路（3.5km）に並行する道道296号は、小中学校への通学路として使用されているため、事業実施前には開水路沿いの安全面に不安があった。本事業の実施により水路が暗渠化されたことで、通学時の安全性が向上している。また、暗渠化され水路の上が耕作道路として利用されていることから、農作業機械が道道を使って移動する距離が短くなり、農作業機械の移動時の安全性が向上している。</p> <p>(2) 自然環境面の変化 ①環境に配慮した施設の整備 昭和30年代に愛別川に整備された愛別川頭首工は、魚道が設置されていなかったことから、取水時期には魚の移動が分断された状態であった。このため、本事業による頭首工の改修により、新たに魚道が設置されている。 魚道の整備前後に実施された魚類調査では、外来種を除いて整備前の5科7種から整備後ではサクラマス幼魚（ヤマメ）など6科8種が確認されている。</p> <p>6 今後の課題 本地区は、本事業及び関連事業によって農業用水施設が整備され、かんがい用水の安定供給等による作物の安定生産や水管理の労力軽減等による営農作業の効率化が図られている。 地域では、良好な農業生産基盤を活かして、スマート農業の実装や6次産業化の取組等が始まっており、農業経営の安定、地域農業の振興を図っていくこととしている。 このためには、機能診断を定期的実施し、適時適切な補修・補強を行うことにより、地区内の農業用水施設の機能を持続的に発揮させるとともに、更なる管理省力化にも留意しつつ、計画的な更新整備を検討・実施していく必要がある。</p> <p>[総合評価] 本事業及び関連事業の実施により、老朽化等により機能が低下していた用水施設の改修を行い、用水機能が維持されている。また、用水供給の安定が図られたことにより、良食味米の生産拡大に寄与するとともに、農業者の用水管理に係る作業時間が節減し、経営規模の拡大やクリーン農業の取組などにもつながっている。 あわせて、遠隔水位監視システムを導入したことにより、施設の維持管理に係る労力の軽減などが図られている。 これらに加えて、農作物の安定生産が行われたことも相まって、本地区における農業生産性の向上及び農業経営の安定化に寄与している。 加えて、都市近郊の立地条件を活かした農産物の直売や加工・販売にも取り組んでおり、地域の活性化に寄与している。</p> </div>	総便益	118,475百万円	総費用	70,286百万円	総費用総便益比	1.68
総便益	118,471百万円												
総費用	70,286百万円												
総費用総便益比	1.68												
総便益	118,475百万円												
総費用	70,286百万円												
総費用総便益比	1.68												